

ガバニングボード（第144回） 議事概要

1. 日 時 令和7年6月26日（木）10:07～10:47

2. 場 所 中央合同庁舎第8号館6階623会議室

3. 出席者

総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)議員

鈴木議員（座長）、宮園議員、梶原議員、佐藤議員、菅議員、波多野議員、光石議員

内閣総理大臣補佐官

森昌文

内閣府

上山内閣府本府参与

濱野事務局長、柿田統括官、塩崎事務局長補、徳増審議官、川上審議官、藤吉審議官、

彦谷審議官、岩渕参事官、石井PD、宮本参事官、岡崎企画官、小林補佐

外務省

松本外務大臣科学技術顧問

経済産業省

大野経済産業大臣科学技術顧問

文部科学省

小安文科大臣科学技術顧問

4. 議題

（1）SIP第3期課題概要報告（意見交換）（※公開議題）

（2）SIP第3期課題概要報告（意見交換）（※非公開議題）

（3）SIP第3期社会実装に向けた戦略及び研究開発計画の変更について（承認）

（※非公開議題）

（4）プログラム統括チーム長代理の交代について（報告）（※非公開議題）

5. 配布資料

資料 1-1 課題概要等報告（海洋安全保障プラットフォームの構築）※公開部分

資料 1-2 課題概要等報告（海洋安全保障プラットフォームの構築）※非公開部分

資料 2 SIP第3期「海洋安全保障プラットフォームの構築」の社会実装に向けた戦略
及び研究開発計画の変更について

資料 3 プログラム統括チーム構成員・アドバイザー名簿

6. 非公開理由（議題（2）～（4））

議題（2）～（4）は非公開情報を用いた議論を含むため、非公開とした。

7. 議事

（1）SIP第3期「海洋安全保障プラットフォームの構築」に関して、課題のビジョンやその
設定背景、実施内容及び成果の社会実装等について意見交換を実施した。

（2）SIP第3期「海洋安全保障プラットフォームの構築」に関して、課題のビジョンやその
設定背景、実施内容及び成果の社会実装等について非公開情報を交えて意見交換を
実施した。

（3）SIP第3期「海洋安全保障プラットフォームの構築」の社会実装に向けた戦略及び研究
開発計画の変更について審議し、承認された。

（4）SIP/BRIDGEのプログラム統括チーム長代理について、3月31日付で退任された
五十嵐 仁一 氏に代わって、長我部 信行 氏に交代することを報告した。

8. 議事概要（議題（1）の公開議題のみ）

午前10時07分 開会

○鈴木議員 それでは、ただいまから144回ガバニングボードを開催いたします。

本日の議題はお配りしております議事次第のとおり、議題（1）については公開で、議題
（2）については非公開で意見交換を行います。議題（3）については非公開で審議を行いま
す。

なお、議題（4）については非公開の報告事項となります。

資料はガバニングボード終了後、内閣府のホームページに非公開資料を除き公開しますので、
御承知おきください。

それでは、初めに議題（１）、（２）のＳＩＰ第３期課題概要報告を行います。

本議題は各課題の現在の進捗についてＰＤから御説明いただくことに加え、年度末に行う中間評価を意識した社会実装計画についてＰＤから御報告いただき、意見交換を行います。このうち社会実装計画の御報告、意見交換については非公開となります。

本日は海洋安全保障プラットフォームの構築について、石井ＰＤに御出席いただいております。

それでは、まず議題（１）として石井ＰＤから現在の進捗について御説明をお願いいたします。

○石井ＰＤ　おはようございます。ＳＩＰの石井でございます。

委員の皆さんにはいつも大変御協力を賜り、ありがとうございます。

まずは資料１－１、通し番号００３、プログラムの概要からですが、トランプ関税政策を契機に中国による米国へのレアアース輸出禁止あるいは輸出半減等、連日レアアースを含む重要鉱物資源の関連記事が掲載されております国際情勢の中で、改めてレアアースではサプライチェーンの９０％を維持している中国への政府としての対応が求められております。

私どもＳＩＰ海洋プログラムでは、左下に記載のとおり第２期の２０１８年、平成３０年からレアアースのこのような国際供給障害を想定いたしまして、本格的な研究開発に着手し、この第２期の成果を生かした第３期からは９省４国立研究機関を推進委員会として組織し、その下で８個の府省庁連絡会や自治体連絡会をベースに右下に記載してありますとおり、サブ課題①レアアース生産技術として南鳥島ＥＥＺのレアアースについては鉱区設定に資する調査を行うとともに、６，０００メートルからの採鉱試験を実施し、分離・精製・製錬プロセスを完成させ、レアアースの生産システムにめどをつけるといたしまして、来年１月の南鳥島沖でのレアアース採鉱に必要とされる採鉱機器類の接続採鉱試験に向けました準備を鋭意加速している状態でございます。

また、これに伴う海洋海中ロボットを駆使しました広域モニタリングシステムの構築をサブ課題②海洋環境評価システムとして、また、サブ課題③海洋ロボティクス調査技術と連携いたしまして、ＡＵＶ、深海ターミナル等を高機能化し、海洋鉱物資源開発や海洋ＣＯ₂貯留への海洋環境広域モニタリングシステムへの展開を図るとしております。

そして、サブ課題④の海洋玄武岩ＣＣＳ基礎調査研究として、南鳥島沖の水深１，０００メートルに位置します拓洋第５海山の玄武岩を利用しました大規模ＣＯ₂貯留技術に関する基礎調査研究を経済産業省との連携の下で実施するとして、大規模な海洋玄武岩ＣＣＳのプロジェクト

クトを国際展開を目指した形での大型研究として展開してきております。

次の４ページを御覧ください。

００４の左は「江戸っ子１号」や「しんりゅう6000」等の海中ロボットなどで構成されます海洋モニタリングの全体図でありまして、右側は私どもの採鉱システムが閉鎖循環系の採鉱システムであり、海洋環境に与える負荷が極めて小さい海洋石油天然ガス採掘方式と類似の方式を採用しております。

次の００５を御覧ください。

４個のサブ課題に基づく相互に連携をしながら国産レアアースの採鉱とサプライチェーンの構築などへのアウトプット、そして、鉱業法に基づく鉱業権設定などのアウトカム、出口目標は政府機関、開発事業者へバトンタッチする社会実装を実現すべく着実な歩みを進めております。

００６を御覧ください。

特に令和５年の海洋基本計画へのＳＩＰ海洋プログラムの特記から始まりまして、海洋エネルギー・鉱物資源開発計画、海洋開発等重点戦略、そして、昨年６月の骨太方針へと順次国の政策に主述していただきまして、００７でございますが、昨年１１月の総合経済対策では海洋政策の大きな柱として、また、政策ファイルにおいて明記していただきました。

００８がその政策ファイルでございますが、全てＳＩＰ海洋プログラムが記載されております。

次の００９は４月２５日に官邸で開催されました総合海洋政策本部会議におきまして、石破総理大臣から南鳥島周辺海域におけるレアアース生産の社会実装実現に向け、本年度より深海６，０００メートルの揚泥管接続試験を開始しますと明言していただきました。

０１０、最後のページでございますが、今月１３日の骨太方針では自律型無人探査機（ＡＵＶ）と周辺技術の利用実証の支援、南鳥島周辺海域でのレアアース生産に向けた研究開発、深海・海溝域の探査・採取プラットフォーム機能を持つ母船の在り方等の検討と正に今の国際情勢にふさわしい重点戦略としてのＳＩＰ海洋プログラムを国の政策の大きな柱として位置づけを明確にさせていただいております。

以上でございます。

○鈴木議員　ありがとうございました。

それでは、御説明いただいた内容についてまずは有識者議員の皆様から御質問や御意見ございますでしょうか。

光石さん。

○光石議員 ありがとうございます。

海洋ロボティクスのAUVは、例えば、サブ課題①のレアアースの生産やCCSに役立つという理解でよろしいでしょうか。それとも個々に独立したものでしょうか。

○石井PD やはり6,000メートルの深海の採鉱試験を実施することになりますと、6,000メートルはほとんど暗黒の世界でございますので、ここで何をしているか分からないような形では駄目ということで、私ども海洋の見える化、深海の見える化をベースに技術開発して、そのためには海中ロボットのモニタリングシステムが必須であろうと。このモニタリング技術につきましてはまた社会実装でお話しさせていただきますが、浅海域も含めた形でのCCSや海底パイプラインの埋設状況の調査等に積極的に使われるような形の展開を図ってきております。

○光石議員 お互いに関連しているという理解でよろしいですか。

○石井PD はい。十分大きな関連でやらせて頂いております。

○光石議員 ありがとうございます。

○鈴木議員 他にございますか。有識者議員ではない方でも結構でございますけれども。

それでは、ありがとうございました。

本日のガバニングボードの公開議題は以上とさせていただきます。これ以降、非公開議題となりますので、プレスの皆様は御退席をお願いいたします。

午前10時17分 閉会